おきぷら杯小学

浦城 男女ハンドV

冷静に展開 振り切る 男子

ハンドボールの第9回おきぷら杯争奪兼第36回県小学生大会（主催・県ハンドボール協会、共催・沖縄タイムス社、協賛・沖縄プラント工業、モルテン）は23日、八重瀬町東風平運動公園体育館で男女決勝までを行い、Aパート男子は浦城が神森を23―17で下し初優勝した。同女子は浦城が神森を20―11で下し、2年ぶり6度目の優勝を果たした。

浦城男女は8月に京都府で行われる第31回全国小学生大会へ出場する。

男子浦城が念願の初優勝を果たした。前半3分までの4得点で波に乗った。後半開始直後に2点差まで追い上げられたが、声を掛け合って冷静さを取り戻してプレー。コートを広く使ったパス回しでゴールを奪うなど勝負どころで力を発揮し、試合の流れをたぐり寄せた。

浦城は昨年、予選ブロックを4チーム中3位で大会を終えた。その悔しさを晴らそうと、試合の日もコート脇を走るなどわずかな時間も使って走力を強化。ゴールの左右にボールをつるして的にする練習で、決定力を高めた。

神森には小柄な選手が多いため、ロングシュートが打ちづらいと考え、下がり目の位置で守備。人数をかけることでパスコースをつぶし失点を抑えた。ゴール右脇から左へのサイドチェンジなどフリーの選手にボールをつないで得点を積み上げた。

優勝の瞬間、ぽろぽろと涙をこぼした選手たち。平良渾（かいり）主将は「自分たちの世代で全国大会が勝ち取れてうれしい。守備を強化して全国制覇を目指す」と意気込んだ。

（又吉健次）

男子決勝　浦城―神森　後半、浦城の大城翔太郎が11点目のシュートを決める＝東風平運動公園体育館（金城健太撮影）

【男子】

〈Aパート〉

▽決勝トーナメント準決勝

浦城 21―12 宮城
神森 32―16 前田

▽同決勝

浦城 23（13―11、10―6）17 神森

【女子】

〈Aパート〉

▽決勝トーナメント準決勝

浦城 19―5 SUNs
神森 20―8 当山

▽同決勝

浦城 20（9―5、11―6）11 神森

【二部パート】

▽1ブロック決勝リーグ

兼原 27―12 読谷
宜野湾 19―17 読谷
牧港 14―10 宜野湾
牧港 17―4 読谷
兼原 10―6 宜野湾
牧港 14―9 兼原

▽同最終成績 ①牧港3勝②兼原2勝1敗③宜野湾1勝2敗④読谷3敗

▽2ブロック決勝リーグ

兼原 15―11 内間
沢岻 5―5 兼原
沢岻 14―6 内間

▽同最終成績 ①沢岻1勝1分け②兼原1勝1分け③内間2敗（1・2位は得失点差による）

▽3ブロック決勝リーグ

前田 17―10 天願
前田 17―4 那覇東
天願 15―9 那覇東
前田 14―9 名護
天願 10―5 名護
名護 9―7 那覇東

▽同最終成績 ①前田3勝②天願2勝1敗③名護1勝2敗④那覇東3敗

圧巻の攻撃 突き放す 女子

圧巻の攻撃だった。女子浦城は、開始40秒ほどで西原歩奈のシュートで先制すると、その後も4得点し流れを引き寄せた。前半10分までに10―2と大量リード。スロースターターの神森に前半の終わり際、連続失点した。だが後半開始早々、又吉虹歌主将の2得点で再び流れを引き寄せると、危なげない試合運びで全国大会への切符を手にした。

守っては大きな体を生かした高く堅い守備で失点を抑えた。

決勝で4得点の野底桃伽は「焦った場面もあったけど、シュートを決めることで落ち着けた。優勝はめっちゃうれしい」と喜ぶ。

浦城の男女を指導する粟國茂則監督は「速攻を鍛えて全国大会へ臨む。一戦必勝で目の前の試合を勝ち進みたい」と意気込んだ。

女子決勝　浦城―神森　前半、浦城の野底桃伽が左サイドから6点目を挙げる

男子優勝の浦城

女子を制した浦城